



令和7年度の事業について

神奈川県精神保健福祉審議会説明資料

神奈川県健康医療局
保健医療部がん・疾病対策課

1 神奈川県をめざす姿

医療



病気になったり、
症状が悪くなったとき...

**安心して治療を
受けることができる！**

障害福祉・介護

支援が必要になったら...
**援助を求めることが
できる！**



誰もが安心して自分らしく暮らすことができる
「当事者目線」のかながわ



治療を終えたあと...

**自宅や施設で、
生活することが
できる！**

住まい

**精神科入院患者にも
当事者目線での支援
の展開**

自分らしく暮らすために...

**地域でいきいきと
生活ができる！**



社会参加

al Government

2 県内精神科病院の実態

令和6年

病院管理者向け WEB調査

1~2月

目的

- ・法改正に向けた各病院の取組状況
- ・地域移行支援における取組状況
- ・身体合併症への対応状況

回答数



(県内70病院)

〔 県所管域 26病院 横浜市 25病院
川崎市 9病院 相模原市 6病院 〕

精神科医療の意見箱

(患者・家族・職員)

1~3月

- ・入院中や退院に関する困りごと
(患者・家族の生の声)
- ・職場の困りごと (職員の生の声)

372件 (県内70病院)



〔 入院患者 123件 家族 90件
入院経験がある患者 74件 病院職員等 85件 〕

患者・家族・職員 ヒアリング調査

5~7月

- ・入院中や退院・職場に関する困りごと
(患者・家族・職員の生の声を深掘り)
- ・虐待事案発生の未然防止に係る方策

183名 (県域10病院)



〔 入院患者 73名 家族 18名 病院職員 92名 〕

主な意見



- (患者に関する意見)
- ◆ 身体合併症の課題に関する意見

- ◆ 職員から不適切な発言を受けた。
- ◆ 他の患者を叩いていた。

- ◆ 人員配置や外出の課題に関する意見



- (家族に関する意見)
- ◆ 地域移行の課題に関する意見

- ◆ 転院先を家族で探さねばならず苦労した。
- ◆ 退院後の患者との接し方がわからない。

- ◆ 面会や接遇の課題に関する意見



- (職員に関する意見)
- ◆ 接遇や人員配置の課題に関する意見

- ◆ 患者に乱暴に対応する職員がいた。
- ◆ 業務過多で患者へケアが提供できなかった。

- ◆ 人員配置や患者との関わり方の課題に関する意見

2 県内精神科病院の実態（各調査における患者・職員等の声）

入院患者の目線

- ◆職員から 不適切な対応を受けている。
- ◆治療や薬について 丁寧な説明がない。
- ◆外出など、外部との 接触する機会がない。

病院職員の目線

- ◆介助の必要な患者が多く、人手が全く足りていない。
- ◆職員の 不適切な対応を見聞きした。
- ◆患者から暴力・暴言を受けている。
- ◆接し方に悩んでいるので、事例共有の場が欲しい。

病院管理者の目線

- ◆実務的な 研修が企画できない。
- ◆職員への行動制限最小化の 意識が浸透しない。
- ◆身体疾患があると、悪化したときに 受入れ先病院が見つかりにくい。

「当事者目線の精神科医療」となっていない部分も多い

3 見えてきた課題

課題 1

病院等職員の
マンパワー・意識・スキル
の不足



課題 2

地域移行のための
相談支援等の体制不足



課題 3

身体合併症にも対応できる
医療体制の不足



課題 4

精神保健指定医（法定）
に関する低い処遇水準



4 令和7年度の事業の概要

	事業一覧	県域	政令市域
行動制限の最小化・虐待防止の推進	(1)行動制限最小化推進事業 - 行動制限最小化モデル事業 - オープンダイアログ試行事業	●	●
	(2) 虐待防止対応力向上研修事業	●	
	(3) 精神科病院処遇改善設備支援事業	●	
入院患者の地域移行の推進	(4) 精神科病院入院者訪問支援事業	●	
身体合併症に対応する医療体制づくり	(5) 身体合併症連携モデル事業	●	
精神保健指定医（法定）の処遇改善	(6) 措置診察体制整備事業費・ 精神科病院実地審査事務費 （精神保健指定医の報酬の見直し）	●	（●）
当事者目線の精神科医療の実現	(7) 精神障害者目線の社会検討事業費	●	（●）

○ 行動制限の最小化・虐待防止の推進

(1) ① 行動制限最小化推進事業

5,960千円

県域

事業内容

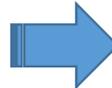
- ① プロジェクトチームの設置
- ② 新たなモデル病院の設置
- ③ オープンダイアログ試行

新たなモデル病院の設置

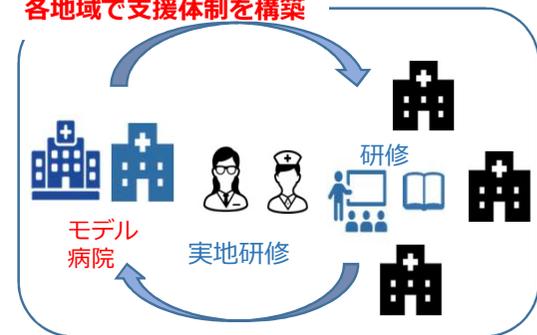
令和7年度



●●地域：1病院



各地域で支援体制を構築



概要

- ◆精神科病院における行動制限最小化に向け、プロジェクトチームや検討会チームを設置するとともに、モデル病院を新たに選定し、全県展開に向けて検討・研修を行い、県全体の身体拘束率を下げる。
- ◆先進的な患者対応手法であるオープンダイアログの試行や検討を行う。

事業費内訳

- ◆プロジェクトチーム関連費用
- ◆実地研修補助
- ◆派遣コンサルティング支援費用
- ◆オープンダイアログ試行事業費用

○ 行動制限の最小化・虐待防止の推進

(2) **新** 虐待防止対応力向上研修事業研修

3,146千円

県域



概要

◆精神科病院職員の虐待防止意識の向上と実践的な知識・スキルの習得を図るため、最新かつ専門的な知識・経験を有する専門家による全体研修と、同専門家を病院へ個別に派遣し、対面形式による実務研修を実施する。

事業費内訳

- ◆研修実施の委託料 (外部講師への報酬・旅費等)
- ◆県職員立会旅費

○ 行動制限の最小化・虐待防止の推進

(3) ⑧ 精神科病院処遇改善設備支援事業

27,659千円

県域



各種調査の結果

- ◆ 病院WEB調査
低床ベッド、離床センサーの導入を求める多くの声
- ◆ 精神科病院調査事業
機器の活用により人員不足をカバーし、行動制限の最小化に取り組む成功事例

概要

- ◆ 精神科病院の職員による入院患者に対する効果的なケアと虐待防止を図るため、病院内における見守りカメラの設置費に加え、低床電動ベッド等のサポート機器の導入費に対して補助する。

事業費内訳

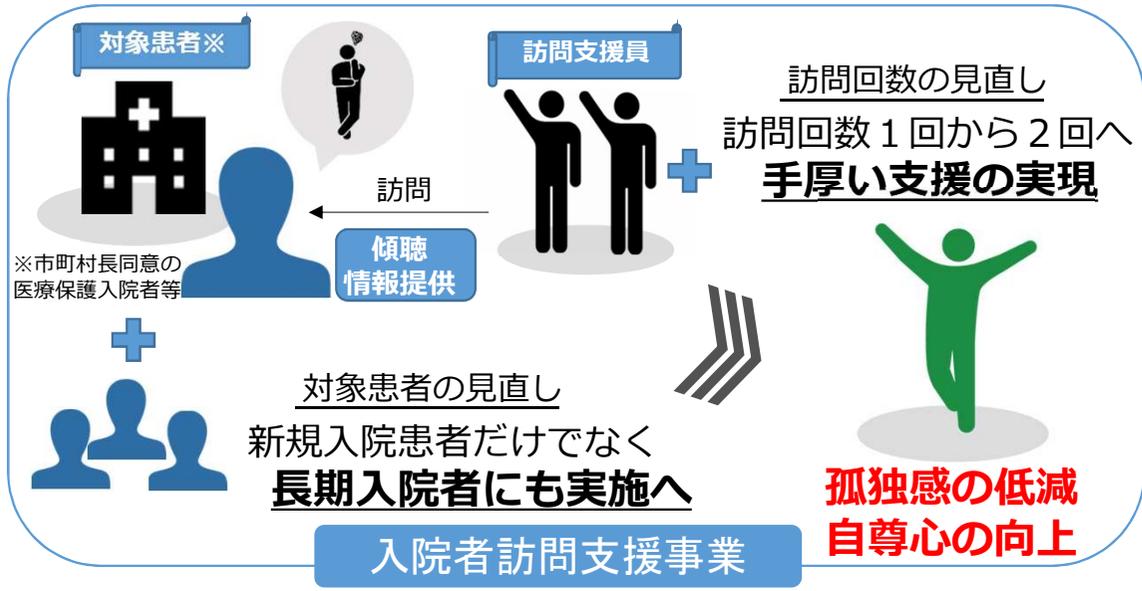
- ◆ 処遇改善に関する備品購入費補助
 - 低床電動ベッド、衝撃緩和マット、離床センサーの設置費補助
- ◆ 見守りカメラの設置費補助（既存事業）

○ 入院患者の地域移行の推進

(4) ④ 精神科病院入院者訪問支援事業

25,284千円

県域



病院からの意見

- ◆入院が長期化する患者こそ **より孤独を感じやすい**
- ◆入院が長期化している患者 に対しても支援を行ってほしい
- ◆複数回の訪問がないと **患者との信頼関係も築きにくい**

訪問支援体制の充実

令和6年度 81回 > 令和7年度 **218回**

概要 ◆精神科病院の入院者の孤立を防止し、退院に向けた支援につなぐため、「入院者訪問支援員」を精神科病院に派遣し、入院者の気持ちや不安を傾聴し、必要に応じて入院生活や退院後の生活に役立つ情報を提供する。

事業費内訳 ◆訪問支援員養成研修、入院者訪問支援事業、実務者会議 など

【R6年度実施状況】

- ◆病院への事前説明 (5月～6月)
- ◆第1回支援員養成研修 (7月下旬)

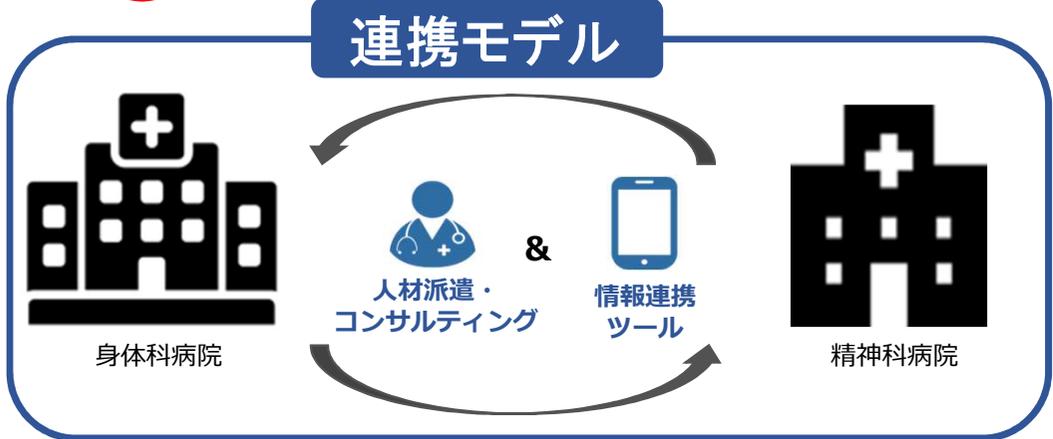
【R6年度予定】

- ◆第2回支援員養成研修 (8月下旬)
- ◆実務者会議 (9月)
- ◆訪問開始 (9月)

○ 身体合併症に対応する医療体制づくり

(5) **新** 身体合併症連携モデル事業

12,456千円 県域



※過去実施していた「精神科コロナ医療体制」をイメージして実施

概要

◆精神科病院における身体合併症患者の対応力向上及び地域における精神科と身体科の連携を強化するため、精神科病院と身体科病院が連携するモデル病院を選定し、相互に治療に関する助言や医療従事者の派遣等を行う。

事業費内訳

- ◆精神科病院への委託
- ◆身体科病院への委託

○ 身体合併症に対応する医療体制づくり

(5) **新** 身体合併症連携モデル事業



○ 精神保健指定医（法定）の処遇改善

（6）**（拡）** 措置診察体制整備事業・精神科病院実地審査事務

全県

11,251千円



措置入院に係る診察等における報酬単価の増額
（@16千円/日 ⇒ **@20千円/日**）



立入検査（実地指導・実地審査）に係る報酬単価の増額
（@16千円/日 ⇒ **@20千円/日**）

概要

◆当事者目線の精神科医療の実現に不可欠な、行政の適正な措置診察を行う指定医を安定的に確保するため、処遇の改善を行う。

事業費内訳

- | | |
|--------------------|------|
| ◆措置診察体制整備事業（精神科救急） | 医師報酬 |
| ◆精神科病院実地審査事務 | 医師報酬 |

※措置診察のために待機する指定医に対する待機料については、令和8年度からの予算化を目指す。

○ 精神保健指定医（法定）の処遇改善

(6) ⑧ 措置診察体制整備事業

	6年度	7年度	8年度
指定医報酬 の見直し	制度検討 予算要求 条例改正	<u>指定医報酬 2万円</u>	
待機料 の創設	他自治体調査 ・ 制度検討	制度検討 ・ 予算要求	待機料創設

○ 精神障害者目線の社会検討事業

会議名仮称

全県

(7) **新** 『「精神障害者目線の社会」検討会議』の開催

1,476千円



概要

『「精神障害者目線の社会」検討会議（仮称）』を開催し、精神障害を抱えた方の生きやすさ、自己実現に関する課題を当事者目線で把握し、自分らしく生きていける社会づくりを中長期的な目線に立って協議する。

事業費内訳

- ◆ 会議委員謝礼（本会議、分科会）
- ◆ その他会議開催費用（会議室使用料、議事録作成費）

終了

Fin